

小笠原国立公園

公園計画の変更 [一部変更]

ご説明の流れ

1. 小笠原国立公園について
2. 今回の変更【一部変更】について
3. パブリックコメントの対応について

ご説明の流れ

1. 小笠原国立公園について
2. 今回の変更【一部変更】について
3. パブリックコメントの対応について

亜熱帯の火山列島と海洋島 ～進化と固有種の宝庫～



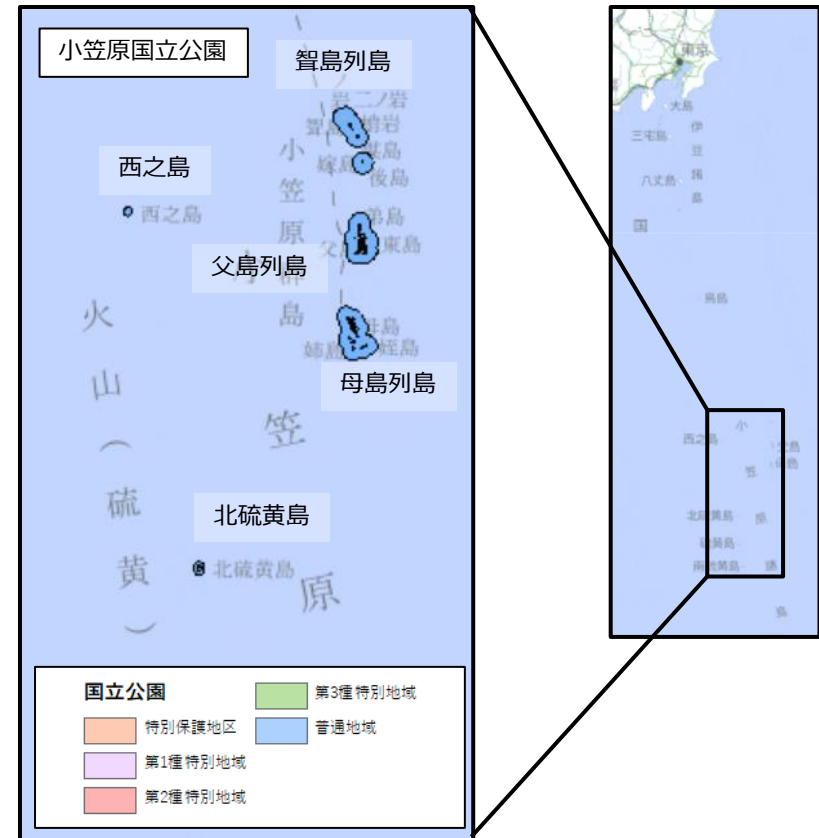
傘山からの夕日（父島）

小笠原国立公園の概要

- 指定：昭和47年10月16日
- 面積：128,009ha
(陸域 6,629ha、海域 121,380ha)

● 風景型式

新第三紀海底火山の海底堆積層からなる智島、父島、母島、第四紀以降の火山活動からなる硫黄火山列島、西之島、カルスト地形からなる父島の南島、母島の石門山及び瓢箪島等の海中景観が代表的な景観。亜熱帯地域の海洋島で独自の進化を遂げた多くの固有種からなる独特の生態系や、サンゴ礁や熱帯魚、鯨類等が見られる海域も大きな特徴となっている。



● 見直しの経緯

昭和50年5月17日
平成14年8月15日
平成18年8月1日
平成21年11月12日

一部変更
一部変更
一部変更
再検討

平成23年
世界自然
遺産登録

ご説明の流れ

1. 小笠原国立公園について
2. 今回の変更【一部変更】について
3. パブリックコメントの対応について

今回の変更のポイント

- 小笠原国立公園では、海域の利用に加えて、固有の動植物等の小笠原諸島ならではの景観を見ることができる陸域のガイドツアーの利用者も多い。
- 利用者が安全にガイドツアーを楽しみ、かつ自然環境を保全するためには、歩道の適切な整備や維持管理が必要である。
- 今後、歩道管理を適切に行っていくため、公園計画に位置付ける。

● 利用施設計画の変更

- ✓ 利用の実態にあわせた**道路（歩道）の追加と変更**
 - 道路（歩道）12路線の追加
 - 道路（歩道）2路線の変更（路線の延長2件）

今回の変更のポイント

●父島の歩道等利用者数

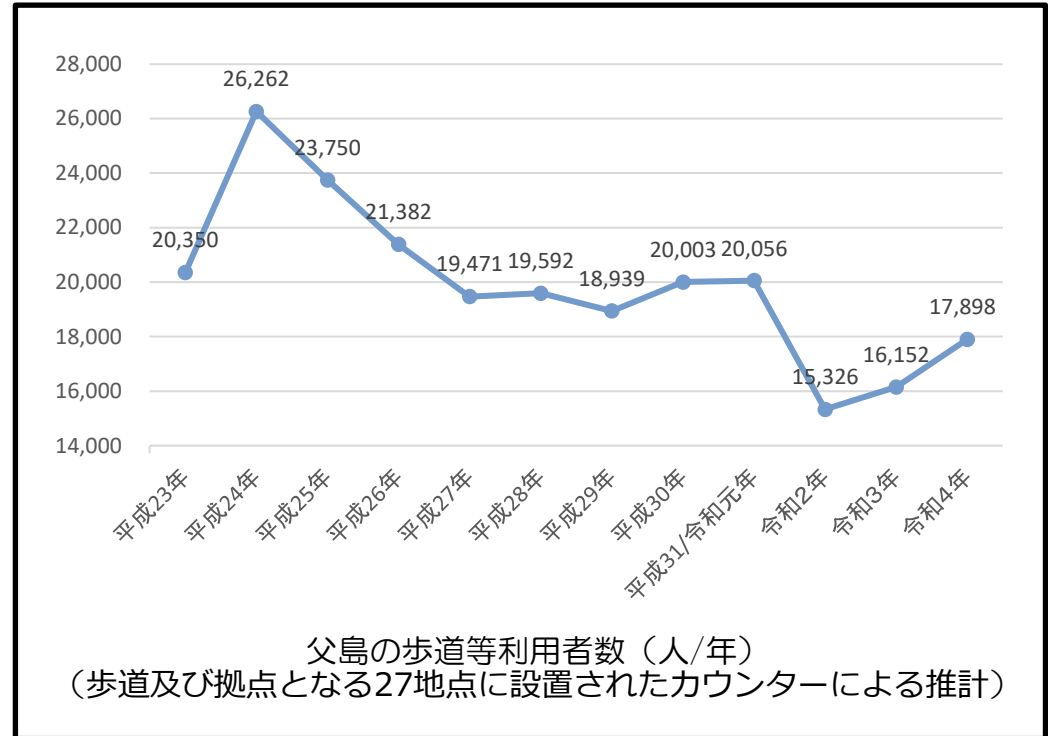
【全体傾向】

- 平成24年（世界自然遺産登録の翌年）が最大利用者数
- 平成27年頃から2万人前後で推移
- 令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響で減少
- 利用者数は以前の水準まで回復傾向

【利用状況】

- 令和4年の※全利用者数（17,898人）に対する歩道利用者数（12,056人）は67.4%を占める
⇒登山やトレッキング等による歩道の利用がみられる

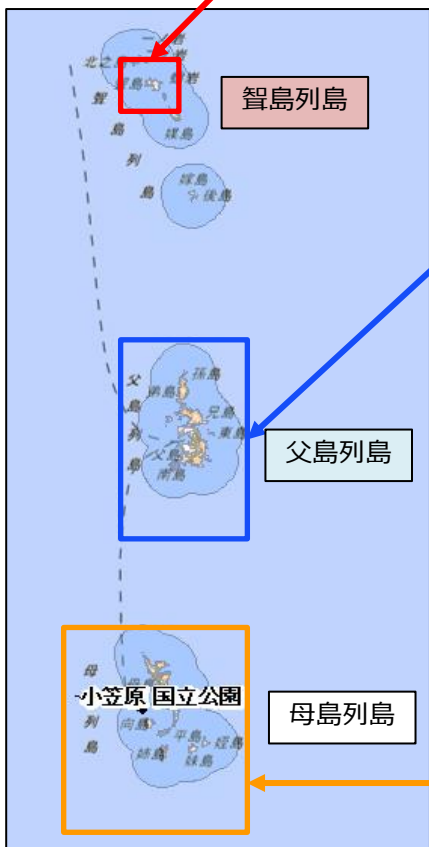
※全利用者数にはビーチ等の海域利用者も含まれる。



利用者が安全にガイドツアーを楽しみ、且つ周辺の自然環境を保全するためには、これらの登山道を公園計画に位置づけた上で、利用の実態を踏まえた整備・維持管理を適切に行う必要がある。

利用施設計画の変更①

●道路 (歩道) の一覧



※いずれも既存の歩道を公園計画に位置付けるもので新たな改変は伴わない。

利用施設計画の変更②

●道路（歩道）の変更【父島】

常世ノ滝を経て、巽谷を周回し、西海岸及び千尋岩に至る登山道として整備する。

○つつじ山南麓線（延長）

起点：北袋沢・国立公園境界

終点：巽谷



起点：常世ノ滝・国立公園境界

終点：西海岸

終点：千尋岩



千尋岩



西海岸



近自然工法



利用施設計画の変更③

●道路（歩道）の追加【南島】

鮫池から東尾根及び陰陽池に至る登山道として整備する。

○南島線（新規）

起点：鮫池

終点：東尾根

終点：陰陽池



陰陽池



東尾根から扇池への展望



分岐周辺



ヒロベソカタマイマイの化石



利用施設計画の変更④

●道路（歩道）の追加【母島】

西浦に至る登山道として整備する。

○西浦線（新規）

起点：西浦・車道分岐点

終点：西浦



ご説明の流れ

1. 小笠原国立公園について
2. 今回の変更【一部変更】について
3. パブリックコメントの対応について

パブリックコメントの実施結果

■ 概要

- ・ 実施期間 令和5年10月26日（木）から11月24日（金）
- ・ 意見募集の結果 （意見提出数）

電子メールによるもの	計1通（1件）
郵送によるもの	計0通
FAXによるもの	計0通
今回の変更案にかかるもの	計1件